



たもんじ交流農園 2019年11月号

便い Vol.20



11/4 秋の収穫祭開催!! 入場者数は過去最高の120名!!

11月4日(月振休)、秋晴れのもと「秋の収穫祭」開催されました。墨田児童館さんとの共同企画。25名の児童館さんの子供達達を始め、墨田区内外から、本当に多くの皆様にご参加頂き120名というこれまでの最高ご入場者数を記録しました。ご参加頂いた皆様に



心からお礼申し上げます。何よりも嬉しかったことは、facebookとか東向島駅前のチラシとかを見てご初めて参加下さった方々が沢山いらっしゃったことです。私どものこの交流農園を開設した、「子供さんからお年寄りの方々が一緒に集まって、話し合い、楽しむ場所の提供」が実現出来たことが一番嬉しいです。落花生、大根、コカブ、内藤トウガラシを収穫しました。カレーライス、ピザ、大根餅を頂きました。美味しかったなあ!

植物の生命力、凄いです。子供さん達もビックリし、喜んでました。まさに食育です。これからもたもんじ交流農園はどんどん進化します(小川剛記)。



土にまみれた落花生を掘り起こす小学生の子ども達の歓声が可愛らしい。ふと目をやると野菜畑にはモンシロチョウが飛び回っている。それをみていた幼稚園の園長先生が野菜の葉に蝶々の卵がきつとあるねという。うちの園児にも体験させたいと声掛けて来る。どこかで「なめくじ嫌い」「あつカゲいる」「おサカナだあ...」との声が耳に入る。デッキと芝生広場では気持ちの良い日差しと風を感じながら手作り窯の焼き立てのピザを頬ばって

いる。採れたての大根でお餅を作る居酒屋の店主、多勢いる子ども達に大量のカレーライスを賄いするお弁当屋さん夫婦。勿論一主婦達も腕を振るう。みんな喜んでボランティアで参加してくれている。笑顔があちらこちらでいっぱい咲いて。やっぱり、墨田区のこの地に交流農園を創って良かった。次は、子ども達が通路を走り回っても転ばないように石ころを無くし、お年寄りも歩き易いよう舗装したいと想う造園担当者の感想でした(牛久光次記)。





(先月号の前半から続きです)そして車イスの方が先導を終えて、次の次あたりで、なんでかサンバが登場。江戸の格好でサンバ、しかも、横浜飯店から出て来たぞ!!うーん、よくわからな〜い。こんなときこそ、踊ってしまうに限る〜ということ、私もここからは踊っていたので、記憶は飛んでます(笑)時折、窓の内側から笑顔が見えます。笑顔がオーラに満ち満ちています。そこに向けて、谷中しょうがを振って応えます。こうして、気づけば向中の校門前。江戸に浸かるの文字が躍っています、いえ〜い。サンバに見事踊らされましたよ、楽しかった〜。



「つづいては、谷中しょうがさんの登場です。点字物語「天の尺(あまのじゃく)」さん、どうぞ〜」と共に、栄えあるアーチ状の橋を越え、登場したのですが、これ(橋)誰が作られたんでしょうね。泣ける演出だなあ。私もまだ、てらたま協議会さんと出会って2か月と経っていないにも関わらず、なんども白髭橋を行ったり来たり。なんか、それを想った時に、このアーチの橋が泣けてきたのであります。江戸へのアーチと、白髭での向島へのアーチ。ついでに七福神とかっぱの末〇さんのお目出度さ加減がダブるのであります。拍手に迎えられ、谷中しょうがと共にテープを用意してくれていて、テープを切った時には、少年に戻った気分でした。ありがとうございました!

盆踊りもちょっと、半端なくよかったですよ。うめわか音頭、あれだけ覚えやすくあれだけ人を惹くのもすごい。それにつづく大地からの太鼓にもしびれました。

あまりに気分よいものだから、岩〇屋に駆け込んで、チューハイを一気飲み。ほろ酔い気分でアーチを越えて、自転車をこきこきと帰ったのであります。でも、気づくとポケットには四文。あれ?江戸に浸かったままだ。しょうがないなあ。もう一杯!みなさま、お疲れさまでした。天の尺もお誘い頂きありがとうございました〜。楽しかったです。(天の尺代表 坂部さん記)

9月28日29日の二日間開催された「第4回江戸に浸かる」に参加できた事は、人との繋がり温かさをあらためて実感するととても素晴らしい体験になりました。私は第2回から参加させていただいておりますが、打ち合わせを重ね準備を進め実行委員の皆様方の熱量にはいつも圧倒されるばかりです。



参加したきっかけは、第2回から始まった『青果リレー』です。当時初めてのフルマラソンを数ヶ月後に控えていた一方、青梅で畑を借りていたことから“青果ランナー”として打診があったのですが、初めて打ち合わせに参加させていただいた席で、区間ランナーのフォロー役、サポートをする伴走者になることを自ら申し出たのでした。そしてその役目も今年で3回目となりました。

青果リレーは本番までにコース試走を4回やります!試走の時から見知らぬ道行く人からの応援を受け、仲間からの差し入れや、街中で新たな発見や出会いがあり、感動します。昨年より今年、試走も回を重ねる毎に!本番を楽しみにされている方が増えていると感じました。走ることで喜んでくれる方がいて、沢山の笑顔に出会えるのは自

分の喜びにもなっております。今回私のランニング仲間の金田さんが伴走者に加わってくれたり、試走の時に偶然出会った少年サッカーチームが本番の青果ランナーを引き受けてくれたり、より安全で楽しい青果リレーになる、嬉しいことがたくさんありました。この少年たちが「第5回江戸に浸かる」の会場に遊びに来て、たもんじ交流農園にも遊びに来て、みんな野菜好きになってくれたらいいなあ、なんていうのは夢でしょうか？ 来年も期待しています！（野島潤二記）

私は3度目の「江戸に浸かる。」でした。手作り感があって、回を重ねるごとに魅力を増していくこのイベントに今年も参加できて嬉しいです。

今後4度目の参加が叶うならば、「江戸浸かさらにこうだったらますますいいなベスト3」

- 1・ゴミを少なく。
- 2・赤ちゃん連れのかた、ご年配のかた、体の不自由なかたも安全に楽しめる空間。
- 3・青果リレーで足立区を走りたい(たかはしゆうこ記)



先ず今回の江戸に浸かるについての岩田の個人的振り返りから。

【成果】 イベント全体的な「まとまり感」がよかった。多くの来場者を招くことができた。「屋台村」として飲食スペースを狭く設けたことで、活気ある雰囲気醸成できた。出店団体の集約ができていた。アンケートもよかった。関所で案内するともっとよかった。チラシや屋台メニュー一覧など統一性が良かった。次回はPRの手段を整理していきたい。



【課題】 1.来場者が多く「文」の交換が予想外に大変そうであった。対策としては、両替所の人員増。2.準備の見通しが不明瞭であった。今回の内容を整理し、どの程度の人員が必要か算出しておくことが必要。3.周知及び宣伝の時期を早めたい。基礎情報のみ最低限の情報でOK。第一次チラシは遅くとも2か月前には撒きたい。4.屋台の飲み残り食べ残しの処理が不完全でゴミ袋内に散乱していた。対策としては、途中から設置していた「バケツ」と案内を設置する・・・等々

『浸かる』とは……「ある状態などに入りきる」こと。1年目は膝まで、2年目で腰まで。3年目は台風により湯冷めをし、4年目にして、肩まで「どっぷり」と浸かってしまった。

令和の街の小さな中学校に現れた「お江戸」が目的。「浸りに来た」村人たちは、NHKホールが満員になるほどの数。「文」を片手に、聴いて、観て、触って、叩いて、踊って、遊んで、歌って、飲んで、食べて、咲いて、跳ねて、感じて、笑って、身体一つでは足りない二日間。たった二日間。街の商人たちが、その道のプロたちが、長い時間準備を重ねて、夜まで打ち合わせて、朝からトンカチ片手に「江戸創り」。江戸が終われば、いつもの校庭、いつもの体育館。いつもの光景、兵どもが夢のあと。また来年。「五輪聖火」のあとは、「なす青果」。来年で5回目。まだまだ5回目。街の「イベント」から「行事」へ。そして、地域を巻き込み「文化」。やがて「伝統」に。「どこまで」浸かるか？「だれと」浸かるか？「どのように」浸かるか？ 1年かけて考えよう。江戸に浸かると、「すみだの夢」が身近に感じられた。(岩田屋酒店：岩田謙一記)

うちの畑じまん 第13回 かえるのトンネル田村美穂子さん

田村美穂子と申します。「かえるのトンネル」という店で、カエルグッズや絵本を販売する傍ら喫茶、絵本づくり教室やお絵かきカフェを開いています。

今年の春から農園に通い始めました。畑は全く初めてです。肥料や土壌改善について教えていただきながら、なんとか育ててみました。

お約束の寺島ナス、育てるのは初めてです。実の形が寺島ナス本来の卵型ではなく長いので、「これは交雑種だ」と思いましたが、そのまま植えておきました所、まあ、実のなる事、実のなる事！ワンサカワンサカ凄いことになってしまいました。ただ、枝が横にどんどん広がるので、狭い土地でお行儀よくさせるのが大変でした。



また、じゃが芋を初めて植えました。これも、茎と葉っぱがジャングルのように伸びてしまい、お隣にお邪魔しないようにしなければなりませんので、茎を容赦なく切りましたが、お芋がコロコロと土の中から出てきたときは大感激！「これは、自分が植えた作物」と、耕



作者としての手応えを感じました。他に、バジル、トマト、唐辛子、共同耕作してくださる永井さんの綿など所狭しと植えました。ご近所におすそ分けしたり、お料理したり、充実した農園ライフを味わいました。

秋は、忙しくて休耕中ですが、もうじきしたら、春野菜を植えようと思います。

(かえるのトンネル：墨田区東向島 5-14-6 TEL 03-6657-4780)

新・農園のお隣さんご紹介

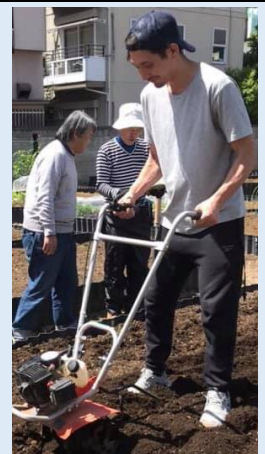
① 自己紹介、②育ててみたい野菜、③希望するイベントや講演会、④農園にける想い等

区画 12-1

添田 拓さん(弟) 亮さん(兄)



① 向島3丁目でハワイアンカフェを兄弟で営んでおります添田と申します。お店では、少ないながらももんじ交流農園で育てたキュウリをピクルス漬けにしたり、トマトをサンドウィッチに挟んだりして使用しています。メニューには野菜、フルーツをふんだんに使ったジュースや健康的なものを多く提供しているため「自家栽培、無農薬」というワードでお客様との話にも花が咲き、嬉しい限りです。



② 自店で使用する野菜、ハウレン草等若しくは、サツマイモ等で子どもたちと一緒にイモ掘りをする予定です。今後は、パクチーやミントなどの香草にも挑戦してみたいです。

③ まだまだ畑に対する知識が浅いため、年間では何が育ちやすいのか、どのような季節、タイミングで種を植えた方がいいのかなど教えていただきたいです。

④ 今後は、自店の野菜の大半を育てられるような畑を持つのが夢です。そこで育てた良質且つ、サンドウィッチにあう野菜でお客様に満足していただけたらと思っています。初めての体験なので経験者の方のアドバイスをいただきながら、楽しくできたらと思います。



(GRAB and GO GOODIES：墨田区向島3丁目 26-7 TEL 080-3123-4333)

■水口アドバイザー来園日は、11/17(日)、12/15(日)、いずれも10～4時の間です。



たもんじ交流農園便り
No.20-般 2019.11.18 発行
題字 田村風來門
編集 末林和之

てらたま協議会 (NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)

<https://www.facebook.com/teratama/>

問い合わせ先 小川 剛 (080-3421-3115)

セブン-イレブン記念財団

